

平成 29 年 9 月 8 日

外務省 NGO 相談員 出張サービス報告書

相談員 公益社団法人 日本国際民間協力会（NICCO）

大豊 盛重

<概要>

企 画 名：国連フォーラム関西主催「世界人道デーイベント」

イベントの種類：講演

実 施 日 時：平成 29 年 8 月 19 日（土） 13 時 00 分～16 時 00 分

出張者氏名：大豊 盛重

主催団体名：国連フォーラム関西

場 所：JICA 関西

〒651-0073 兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通 1-5-2

<実施内容>

この企画は、国際機関・各国政府・支援団体・民間組織・参加者を含む市民が「人道支援のニーズの解消」について何ができるのか、広く一般の参加を募り、一緒に考えるため、「専門家による講演」と「体験型ワークショップ」を行うイベントである。

本会は「人道危機にある脆弱な人々を、届ける支援によってエンパワメントし、コミュニティのレジリエンスを高める」というテーマのもと、NGO の役割について講演を行った。具体的には、本会が実施した、フィリピン台風被災者支援の活動などを例に挙げて講演を実施した。これにより、一般市民の国際協力に対する理解促進と参画を促すことに貢献できた。

<集客人数または相談対応件数>

約 80 名

<所感及び効果等>

当日は暑い中 80 名以上の参加者が来場された。NGO 以外のスピーカーには、外務省、JICA、国連人道問題調整事務所（以下 OCHA）など世界の人道支援に取り組む組織から経験豊富な方々が名を連ねた。今回のイベントの趣旨として、それぞれの特性や立場の違いを明確にして行くことが求められているので、市民が自発的に参加して成り立つ NGO のメリットについて特に意識して講演とワークショップに臨んだ。この中で NGO は、一つ一つの団体について言うと、他のセクターとは、比べ物にならないほど小さいが、それ故、自由かつ小回りが利く。それぞれの NGO が独自の専門性や意思を持って千差万別の活動を行うことが

多様性を産み、規模が小さいが重要な人道ニーズにも対応できるということを伝えた。

後半の体験型ワークショップは、自然災害発災時にそれぞれのセクターがどのように動くかをシュミレーションするものだが、NGO セクターに振り分けられた参加者からは NGO の市民活動としての上記のような利点を最大限に活かした提案がなされたことから、理解されていたと感じる。

<活動風景（写真記録）>



【写真①】 当会スタッフ大豊の講演の様子



【写真②】 グループディスカッション 参加者と共に想定されたシュミレーションに NGO の立場で何ができるかを真剣に考えている。



【写真③】 会場全体図



【写真④】 集合写真

平成 29 年 9 月 8 日

外務省 NGO 相談員 出張サービス報告書

相談員 公益社団法人 日本国際民間協力会（NICCO）

岡田 克彦

<概要>

企 画 名：京都洛南ロータリークラブ例会

イベント種類：講演

実 施 日 時：平成 29 年 8 月 29 日（火）13 時 00 分～13 時 30 分

出張者氏名：岡田 克彦

主催団体名：京都洛南ロータリークラブ事務局

場 所：リーガロイヤルホテル京都

〒600-8237 京都府京都市下京区 東堀川通り塩小路下ル松明町 1 番地

<実施内容>

京都洛南ロータリークラブ（以下、「洛南 RC」）が主催する「例会」にて、講演（30 分間）と質疑応答による相談対応業務を行った。現在洛南 RC は、国際的な活動をより広めていくことによって、洛南 RC の活動の幅を広めていこうと動いている。その 1 つの方法として NGO との協働を考えており、今回の講演の場を頂いた。

講演では、当会がフィリピン・レイテ州・カポオカン町にて行ってきた 2013 年の台風ヨランダに対する緊急災害復興支援を例に挙げた NGO の活動や、今でも住民らが抱える課題についての紹介を行った。

講演後の質疑応答では活発に意見が出された。その例を一部紹介すると、フィリピン政府、日本政府、国連、レイテ州、カポオカン町等のフィリピン台風後の政策がどのようなものであるのか、またそれらの政策はどの程度実施されているものなのか、と言った政策に関わるものや、有用樹木の植林や農産加工技術の向上・マーケット支援などはどの程度確実性の高い支援なのか、といった事業活動に関わるものや、今後の支援活動における民間企業や日本とのつながりはどの程度見込めるのか、という日本との関係に関わるものなどである。さらには、市民団体が支援を継続することが現地のためにもなるという WIN-WIN の関係を築くには、市民団体や支援者による現地への視察が必要であるという提案なども頂いた。

<集客人数または相談対応件数>

講演：約 30 名

<所感及び効果等>

洛南 RC はロータリークラブの規模としてはそれほど大きくなく、今回集まった会員は 30 名程度であった。会員のみなさまは、国際協力に関心はあるものの、どうしたら良いか分からない、という感じであった。そのため、国際協力の 1 つの形として当会の活動を紹介し、洛南 RC に出来る国際協力の形を提案した。後日、洛南 RC の世界社会奉仕委員会の林委員長から「会員の中にはまだ内容が良く分かっていない者も少なからず居りますので、丁寧な説明を頂き、大分理解が進んだ事と思います。」と言うメッセージも頂き、国際協力の実際の活動について理解を深めることができたと感じた。

<活動風景（写真記録）>



講演をする当会スタッフの岡田



講演をする当会スタッフの岡田

平成 29 年 8 月 9 日

外務省国際協力局
民間援助連携室長 殿

(団体名)公益財団法人PHD協会
理事長 水野 雄二

相談員企画型出張サービス実施報告書

1. 企 画 名:「第14回多文化共生のための国際理解教育・開発教育セミナー」

※出張形態:ブース出展

2. 出 張 者:上石景子((公財)PHD協会)

3. 実 施 日:2017年8月7日(月)13:00～16:30

8日(火)13:00～17:00

4. 場 所:JICA 関西(神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2)

5. 対象者 :8月7日(月)75名、8月8日(火)87名

6. 実施報告:

「第14回多文化共生のための国際理解教育・開発教育セミナー」は、兵庫県教育委員会、神戸市教育委員会、公益財団法人神戸 YMCA、公益財団法人 PHD 協会、独立行政法人国際協力機構関西国際センター(JICA 関西)、公益財団法人アジア福祉教育財団難民事業本部の6団体の主催により、主に教員を対象に国際理解教育・開発教育の手法について基調講演・分科会を通して学んでいただく目的で実施しているイベントである。相談員ブースは、国際理解教育・開発教育に興味のある教員・学生に、国際協力や NGO の活動について情報提供するために今回設置をした。また、イベントの冒頭には、NGO 相談員制度とブース出展のアピールをした。

ブースに来られた方は予想以上に多く、相談件数は7日が11件、8日が8件、合計19件であった。19件の内、8件が教員からの質問・相談、11件が学生からの質問・相談であった。相談内容としては、イベントの趣旨に沿った国際理解教育・開発教育に関する質問の他に、学生からの NGO への就職相談、教員として働きながら国際協力に関わる方法、スタディツアーの情報などに関するものがあった。

上記のように、教職に就かれている方、教職に興味のある学生に対し、NGO 相談員制度をアピールできたことは、講演(出張サービス)のチャンスにも繋がり、有意義であったと思う。

7. 添付画像:別紙に当日の様子を2枚添付



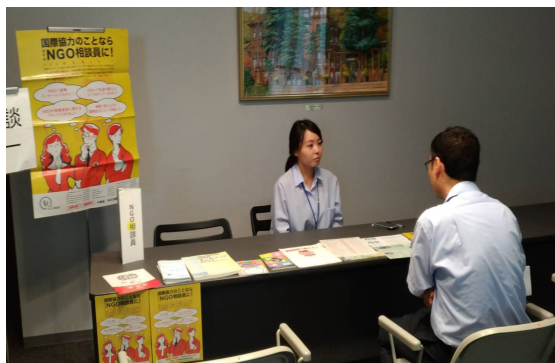
①相談員制度について説明中の様子



②会場全体の様子(基調講演)



③相談対応中の様子 1



④相談対応中の様子 2

NGO 相談員出張サービス実施報告書

(特活) 関西 NGO 協議会

1. 企画名：『2017 年度開発教育・国際教育セミナー、国際教育研修』
における NGO 相談員ブース出展
2. 実施者：谷川詩織 / (特活) 関西 NGO 協議会
3. 日時：2017 年 8 月 4 日 (金曜日)
4. 場所：国際協力機構関西国際センター (JICA 関西)
兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通 1-5-2
5. 参加者：国際協力、開発教育に関心のある教員および
教育機関に勤める職員など約 70 名
6. 実施報告：

<内容>

開発教育セミナー大会場内に相談ブースを設け、プログラムの合間や休憩時間等での相談対応が中心であった。相談者 3 名 (中学・高校教員)、相談件数 7 件

- ① 高校生が参加できるスタディツアーやワークキャンプについて相談があり対応した。高校生や大学生が多く参加するツアーの紹介や、秋に開催される NGO のスタディツアー合同説明会の紹介を行った。また、高校生の参加できる国際協力活動にも関心があったため、若いボランティア等を多く受け入れる地域の NGO の紹介や高校生向けの国際協力イベントの紹介を行った。
- ② 高校教員から高校生の参加できる国際協力イベントやボランティアについて相談があり対応した。高校生が作る国際協力イベントであるワンワールドフェスティバル for Youth などを紹介。
- ③ 高校教員から、授業での開発教育の成果発表の場について、高校生の参加できる国際協力活動について相談があり対応した。ワンワールドフェスティバル for Youth では高校生の研究発表・活動報告の場を設けており、こちらを紹介するとともに、高校生の研究の参考資料として地域の NGO 情報を掲載した「かんさい NGO ガイドブック」を配布した。

＜所感＞

参加者は多いものの合間や休憩中の対応が中心であったこと、セミナー中の広報が十分でなかったことから対応人数は少なかった。しかしながら、NGO 相談員の紹介やポスター掲示などを通じて参加者への広報効果はあったものと思われる。相談対応については開発教育やスタディツアーなどに加えて、参加者に教員が多いことから生徒である中高生が参加可能なイベントや発表の機会などへの関心も高かった。今後、相談ブース出展の際はプログラム前後に国際協力や開発教育および出張セミナーなどに関する相談対応が可能であることについて主催者へ呼びかけの協力依頼や、小さなポスターで相談事例を掲載するなど NGO 相談員を活用いただける工夫を試みたい。

7. 別添（写真）



相談対応中の撮影ができなかったため、終了後に相談員が撮影した写真を添付。

以上

NGO 相談員出張サービス実施報告書

1. 企画名：佐賀市の国際協力機関等への広報及びネットワーキング活動
2. 実施者：原田君子 （特活）NGO 福岡ネットワーク
3. 日時：平成 29 年 8 月 19 日（土）13 時 00 分～18 時 00 分
4. 場所：JICA デスク佐賀（佐賀市白山 2-1-12 佐賀商工ビル 1 階）他計 2 ヶ所
5. 実施報告：

今回の出張サービスで佐賀県内の NGO の現状について 3 機関より話を伺い、また、NGO 相談員についての広報を行った。

JICA デスクに伺い国際協力推進員の和田さんより佐賀県内の国際協力の現状について話を聞かせて頂いた。佐賀県が NGO 誘致に力を入れているおり、実際に東京からいくつかの NGO 団体が佐賀に事務所を置くようになり、以前に比べて国際協力分野の活動がより活発に行われているということだった。NGO 相談員制度について、改めて伝え、今後より連携を強めながら企画を行いたいとの話をしてきた。

次に、加盟団体である「認定 NPO 法人地球市民の会」を訪問し、山路さんより現在取り組んでいる活動や今後の構想などについて話を伺った。途上国のフィールドにおける活動だけでなく、少子高齢化が進む佐賀県の未来ための構想も伺うことができ、参考になった。

最後に、佐賀 NGO ネットワークの総会に参加し、佐賀における国際協力団体及び自治体の担当者の話を伺うとともに、NGO 相談員についての広報を行った。

佐賀県ならではの活動報告や取り組みを伺う事が出来た。

今回の出張サービスでは佐賀 NGO ネットワークに加盟している団体みなさんとの情報交換が出来た事が大きな収穫であり、学ぶ事も多くあった佐賀出張サービスだった。

6. 写真添付



NGO 相談員出張サービス実施報告書

1. 企画名：北九州市の国際協力機関等への広報及びネットワーキング活動
2. 実施者：浅香勇貴（特活）NGO 福岡ネットワーク
3. 日時：平成 29 年 8 月 22 日(火)11 時 00 分～11 時 45 分
4. 場所：JICA デスク北九州（北九州市八幡西区黒崎 3-15-3 コムシティ 3 階）
5. 実施報告：

本企画は、JICA デスク北九州の三浦さんとの話し合いを通して、国際協力機関等との協働の機会を模索することを目的に実施した。具体的には、①北九州市における国際協力団体の現状の把握、②NGO 福岡ネットワークと JICA 九州本部及び国際協力推進員との事業における連携可能性の模索、③連携を進めていく上での役割分担の 3 点について協議した。

①について、九州内の国際協力団体と同様、北九州市においても団体は高齢化しており、20～40 歳代のスタッフが少ないこと、経済的・体力的に厳しい団体が多いことが確認された。

②について、そのような現状を踏まえて、NGO 福岡ネットワークと JICA 九州はどのように連携して九州内の国際協力団体を強化できるのか話し合った。NGO 福岡ネットワークとしては、JICA のプログラムを活用して九州内の国際協力団体を強化する案を持っており、そのために国際協力推進員に協力をお願いしたい旨を伝えた。

③について、九州内の国際協力団体の組織強化を考えた際、ネットワーク NGO として当団体ができること、国際協力推進員に協力してもらえらるることの分担が必要である。したがって、九州の NGO をネットワーク化し組織強化をするための根幹部分は当団体が担当し、国際協力推進員の方には担当地域のキーとなる団体や人物を紹介してほしいことをお伝えし、お互いの役割を協力しながら果たしていくことが確認された。

今後について。これからも北九州市の国際協力推進員とは密にコミュニケーションを取ることになると予想される。例えば、イベントを開催する、研修会を企画する、ワークショップを実施するなどである。その場合、地域の特性を踏まえた上で行わなければうまくいかない可能性があるため、国際協力推進員の方の意見を取り入れながら、連携を強化していきたい。

6. 写真添付



NGO 相談員による出張サービス実施報告書

特定非営利活動法人沖縄 NGO センター

1. 企画名：わかたけ夏市～ハイサイ！ハイタイ！地域から世界へ～
2. 出張者氏名：普久原サオリ、大仲るみ子
3. 主催者団体名：社会福祉法人わかたけ（社会就労センターわかたけ）
4. 実施日：平成 29 年 8 月 26 日（土）10：00-14：00
5. 実施場所：沖縄県総合福祉センター1 階 ゆいプラザ
住所 沖縄県那覇市首里石嶺町 4 丁目 373-1
6. 参加者：約 100 名
7. 実施報告：

【概要】

毎年開催されている社会福祉への理解と地域の輪を広げるためのイベントに国際色を入れ、世界の多様性や地域で世界とつながるワークショップや掲示を行った。また、100 年以上前に日本を出発した移民の歴史や現在の日系社会の様子も紹介し、地域と世界をつながりを紹介した。また、NGO 相談員制度のちらしの掲示を行い、当センターの取り組みや制度の説明等も行った。

【所感】

想定した参加者数よりは少なかったが、ブースを訪れた家族連れや社会福祉施設職員に世界の多様性を参加型ゲームやクイズ、民族衣装等で感じてもらった。普段は、屋内や施設内で過ごすことの多い障害を持った方にとって、「世界」を感じてもらうことができた。また、日系アルゼンチンの若者の想いや体験や移民の歴史や日系社会についても紹介したことで、日本・沖縄の移民の歴史や日系社会についても関心をもつきっかけになったと考える。地域、足元から世界とのつながりに触れ、関心をもち理解することで、「世界」の課題への意識啓発につなげられることを感じた。

8. 写真

